チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注１）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		加古川市スマートシティ構想の推進	加古川市
チームがつけたアイデア名（公開）（注２）	Well-Being かこがわ ~スマートシティでよりよいまちへ~		

（注1）地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。
（注 2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名（公開）	チーム兵庫県立大学 JB24	
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択➡	2.学生
チームメンバー数（公開）	5名	
代表者（公開）	山田晃生	
メンバー（公開）	川上真矢、軽井大貴、城野なつき、福本大貴	

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（メンバー一覧ページを参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、ttps://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja および https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の〇を選択 ➡	OK

＜チームメンバー名簿：メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

アイデアの説明は（1）アイデアの内容（活動）、（2）アイデアの理由（なぜなら）、（3）実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

（1） アイデアの内容（公開）

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

加古川市では加古川市スマートシティ構想の推進において、加古川市に関心や関与を持つ人々に Decidim やオープンデータの提供をはじめとした様々な手段が幅広く提供されていますが、それらを多面的に活用することで、市民やその関係者がより幸福（Well-Being）を強く感じられるようにすることを考えています。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。
（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

社会経済の成熟化とともに、「物質的な豊かさ」から「心の豊かさ」へと人々の価値観は変化し、多様な生きかたが選択できる社会へと変容しつつある今、訪問者を含め加古川で活動するすべての人（広い意味での加古川市民）の方々にとって、一人一人の価値観が尊重され、個性や能力が発揮できる加古川市となり、加古川市で生活するあらゆる人々が、日常生活の中で Well-Being（幸せ）を実感でき、とりわけ未来社会を担う子供たちや若い世代が将来に夢や希望を描くことができるよう、私たちは加古川市のまちづくりに貢献していくことを目指します。そのために現実空間である加古川市についてサイバー空間上で提供されている Decidim やオープンデータの利用についてのノウハウを提供することで、加古川市域内という現実空間で生き、活動する人々の環境をより良いものにし、加古川市民と加古川市に関係する人々の Well-Being をより豊かで深いものにし、加古川市についての満足度をより高めていくための活動をしたいと思っています。

例えば、加古川市版 Decidim をより多くの人に活用してもらうための方法として、マニュアルを作ったり、説明用の動画を作ったりするなどの活動や、多くの人々が興味を持ってもらえるようなアイデアを検討していきます。また、加古川市が提供しているオープンデータを使って分析をしたり、その成果をサイバー空間上や学会などで発表したりします。そして、加古川市を地元自治体の一つとする兵庫県立大学でデジタル技術を学んでいる学生グループの活動として積極的に関係し、その成果を加古川市民と加古川市に関係する人々に還元する活動に取り組んでいこうと考えています。

より具体的には、「Well-Being かこがわ」というキャッチコピーのもと、サイバー空間上でのデジタル技術を活用し、現実空間である加古川市でのスマートシティの実現に協力してゆく活動に継続して取り組んでいきます。

これまで私たちも加古川市版 Decidim をつかってみました。また、加古川市のスマートシティとまちづくりについての取り組みの一つとして輿石ほか（2022）などでも取り上げられている加古川版 Decidim の課題なども参照しつつ、現状の課題を考え、使いづらいと感じるところについて加古川市の職員の方と話し合いました。これらの活動を通じ今後加古川市版 Decidim の課題を踏まえたよりスマートシティとしての加古川でのより一層良いまちづくりが実現するために貢献したいと考えています。

そのため、加古川市版 Decidim での発言の方法や、発言時に配慮したほうが良いことなど、加古川市版 Decidim が市民や関係者の方に広く利用されるようにする、わかりやすく、読んでも面白いマニュアルを作成することを予定しています。その他にも動画形式の見やすいマニュアル作成をすることや、加古川市版 Decidim を市民や関係する人々がより親しみやすいデザインにするため、加古川市のまちの魅力発信キャラクターである「かこのちゃん」を取り入れること、そしてユーザーインタフェースを改善の方向性について加古川市版 Decidim の導入と構築で大きな役割を担われた「一般社団法人コード・フォー・ジャパン」と加古川市と私たちで協議・検討をすること今後してゆければ、と考えています。

加古川市民の皆さんや加古川市の関係する人々に対し、私たちがマニュアルの作成等や Decidim の使い方や関連情報について発信するための勝手連的に加古川市版 Decidim とその利用者を応援する Web サイトの構築を行い、そこで使い方の動画やマニュアルの公開などを行います。また、加古川市と共同でチラシなどを作成したり、デジ田甲子園に応募したりすることで、加古川市版 Decidim の知名度向上につなげ、加古川市版 Decidim を加古川市民だけでなく、より多くの加古川市に関係する人々に周知していくことを考えています。

このような取り組みをすることで加古川市民や加古川市に関係する人々にとって加古川市版 Decidim がより身近な存在になることを目指しています。人々が加古川市版 Decidim を認識し、そこでの発言のための障壁を少しでも軽くすることで、若い人たちを含め、包摂的により多くの人々がより身近な課題についても自分たちの意見を加古川市版 Decidim に投稿してもらえるようにし、Decidim が実現しようとしている熟議するためのプラットフォームとして人々の意見を集められるようにしていきたいと思っています。ただ、日本という文化的文脈を踏まえ、議論を激しく交わし、現実空間をよりよくするためのポイントを明らかにしようとするバルセロナ型の熟議のためのプラットフォームではなく、集まった意見

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

に対する共感と敬意に基づきつつ加古川市に関係する幅広い人々の Well-Being を向上させるための熟議が行われ、加古川市での様々な政策や政策課題についてよりよくするアイデアが次々と生まれる加古川市の独自のプラットフォームとなるよう協力していきたいと考えています。

加古川市版 Decidim がこのようなプラットフォームとなっていくことができれば、加古川市で生き、活動する人々の Well-Being を一層改善するためのアイデアが加古川市に関係する方々から出やすくなり、さらに、Decidim 上で出された様々なアイデアについての議論もより活性化することにつながると考えます。このことを通して、加古川市版 Decidim を加古川市独自の共感と敬意に基づく熟議型のプラットフォームとしていくことが可能ではないかと思います。

集まった市民の皆さんのアイデアなどについての整理や議論についてまとめるための方法などについてもチーム兵庫県立大学 JB24 のメンバーを中心としてテキストマイニングの技法とクラスター分析など大学での学習で身に着けた技術を用いて加古川市との協調・連携を通して何らかのお手伝いができればと考えています。

私たちは大学で学んだデジタル技術を加古川市という現実空間で発生している課題について加古川市と協調・連携を図りながら実際に適応し、加古川市民をはじめ、できるだけ多くの加古川市に関係する人々の Well-Being の一層の向上を実現するための現実空間でのまちづくりの活動にサイバー空間で活用されるデジタル技術を用いて協力していきたいと考えています。これにより、加古川市と加古川市に関係する人々の Well-Being の向上につながると確信しています。

また、加古川市と加古川市に関係する人々にとって身近なものと感じてもらうために、加古川市のまちの魅力発信キャラクターである「かこのちゃん」を積極的に活用できればと考えています。「かこのちゃん」は若者を中心に親しみやすい存在になりつつあります。そこで、この若者が親近感を持つキャラクターである「かこのちゃん」を Decidim のデザインに取り入れることが出来れば、現在の Decidim の利用者の半数以上を占める若い世代の加古川市民や加古川市に関係する人々により一層アピールすることになり（図１参照）、もっと楽しみながら Decidim 上で発言してもらうことができ、共感と敬意に基づく熟議型プラットフォームの充実に繋がるのではないかと考えています。

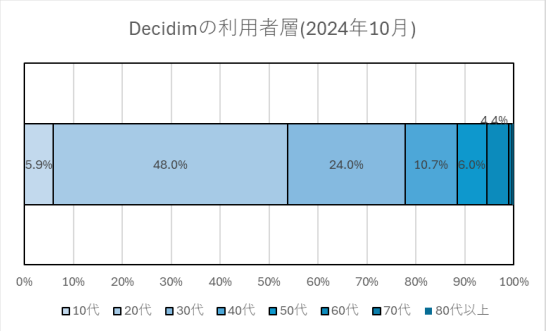

図１　Decidim 利用者の年齢層別の比率

『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うプロジェクトか

この提案は現在あるデジタル技術を活用し、加古川市民と加古川市に関係する人々が、共感と敬意に基づく熟議型プラットフォームでの活動や、オープンデータとして加古川市が提供しておられるデータを利用した分析結果の公表とその内容を理解していただけるようにするというアイデアです。つまり、加古川市でのスマートシティ構想がより豊かな形で実現することに『チーム兵庫県立大学 JB24』が協力・貢献することで、加古川市民と加古川市に関係する人々が主役となり、まちづくりに参画し、意見や思いを伝えることができる環境や機会、普段の暮らしの中で、ジブン時間やスキマ時間など一人一人の好きな時間でまちづくりに参画できる機会を提供することで、より良い生活の質の向上に繋げ、Well-Being が向上したと実感してもらいたいというアイデアです。

『チーム兵庫県立大学 JB24』が『加古川市民とその関係者の方々』に対して『今後』、『Decidim を中心としたサイバー空間上と実際の加古川市という現実空間』で『簡単に意見を投稿できるようにするためのマニュアルや動画の作成、大学でのオープンデータを利用した研究の一環としての研究成果の公表と加古川市と市民・関係する人々への還元』を通して、新たな熟議型プラットフォームの活用を通した「Well-Being かこがわ」の実現に協力・貢献する活動を行うことで、より安全・安心で、市民の方々の生活の質が改善されることを通して、より幸福を感じられるような加古川市を創造することにつなげていきたいと考えています。

参考文献

輿石　彩花，後藤　智香子，新　雄太，矢吹　剣一，吉村　有司，小泉　秀樹（2022）.「日本における住民参加型まちづくり手法としてのオンラインプラットフォーム「Decidim」の活用実態.萌芽期における導入事例の比較から」.都市計画論文集. 57 巻 3 号. pp. 1355-1362.

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュ

2．アイデアの説明（公開）　(2) アイデアの理由（公開）

ー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。
※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞
※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。
※**裏付け**：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

この応募のきっかけになったのが、私たちが学んでいる兵庫県立大学の一年次の前期に加古川市の職員の方に来て複数回講義していただいた基礎演習という講義にて、オープンデータとして提供されている加古川市民意識調査の個票データを活用し、これまで分析されていない内容などについて分析した経験です。この経験が大変印象深かったため、大学で学んだ内容を現実空間で応用して、よりよい社会につなげられれば、と考えるようになりました。また、兵庫県立大学社会情報科学部の先輩方の中には、加古川市の市民意識調査のオープンデータを利用し、市民の幸福感にどのような要素が関係しているのかについての卒業論文を書かれている先輩や、昨年度の COG2023 で加古川市に対して「さんぽ de ポイ活」により、見守りカメラの設置数の少ない地域での見守りサービスの充実を実現する方法を提案された先輩がおられることを知りました。また、この基礎演習の中で加古川市版 Decidim のご紹介をいただきました。そこで、私たちも加古川市に導入されている Decidim を実際に利用してみることにし、さらに加古川市の見守りサービスを一層充実させるための「みまもりアプリ」の実証実験に参加することでそのアイデアの実現に協力し、また、加古川市が提供しておられるオープンデータを活用してスマートシティの実現に貢献し、Decidim 上での共感と敬意に基づく熟議型プラットフォームの一層の発展に貢献してみようと考えるようになりました。

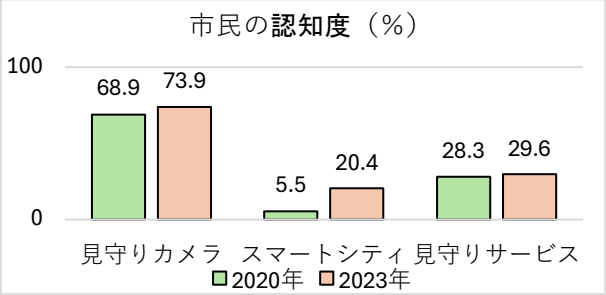

図 2　市民意識調査結果による政策の認知度の推移

デジタル技術は、現代の生活において必要不可欠なものになっており、今後の人々の地域での生活の質を向上させるために活用されることが期待されている技術の一つです。実際、加古川市では様々なデジタル技術が加古川市民や加古川市に関係する人々の安心安全な生活を実現するために用いられています。

例えば、見守りカメラや見守りサービスが 2017 年から導入されており、市民の方の認知度も 70%以上になっています。一方、オンライン申請、 加古川市版 Decidim 、オープンデータの提供や加古川市の行政情報を公表する行政ダッシュボードの提供オープンデータの提供や加古川市の行政情報を公表する行政ダッシュボードの提供など、デジタル技術を活用し、市民の暮らしをより良くする取組として実施しているスマートシティの取組についての認知度は、安全・安心の実現を目指して実施してきた見守りカメラや見守りサービスがスマートシティの取組の一つだと認知していただけるようになってきており、見守りカメラの認知度が 70%前後、見守りサービスの認知度が約 30%に高まっていき、スマートシティの取り組みそのものの認知度も 20%強と、徐々に高まっていますが、まだまだ加古川市民の方々の間で十分認識されているとは言い難い状態にあります（図 2）。

次にデジタル技術を活用し、サイバー空間での熟議型のプラットフォームとして構築され、加古川市では市民や幅広い関係者の皆さんからの声なき声を拾い、加古川市に協力してくださる方々との人脈などを拡げ、市全体としての機能を向上させるための Decidim を例に考えたいと思います。この Decidim は現実空間としての加古川市でのまちづくりのために利用されているサイバー空間上での熟議型のスマートシティについての取り組みといえると思います。

ところで、この加古川市版 Decidim の利用者数については、5 ページの図3に示すように順調に伸びていますし、図 1 でも示したように、その利用者の半数は、私たちの同世代やその少し上の年齢の方々である 20 歳代以下の方々です。しかし、発言数は図 4 に示すように、利用者数が伸びているにもかかわらず、利用者数に比例して伸びているとは言えないように思います。同じ時間に実際の場所に集まる必要がないという意味で、時間や空間に制約されることがなく、議論ができるプラットフォームとしての Decidim が使われないのは、実にもったいないと思いました。

このように発言数が伸びない理由について、私たちはこの秋から加古川市版 Decidim に登録し、実際に使ってみ

2．アイデアの説明（公開）　(2) アイデアの理由（公開）

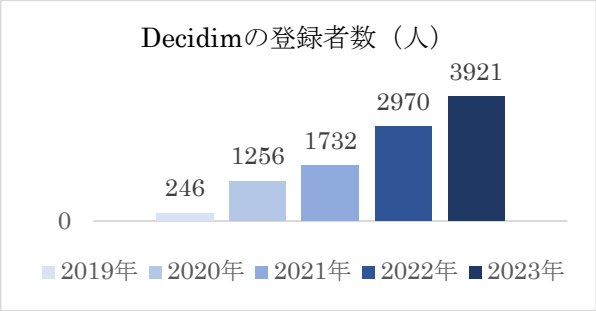

図 3　Decidim の登録者数の推移

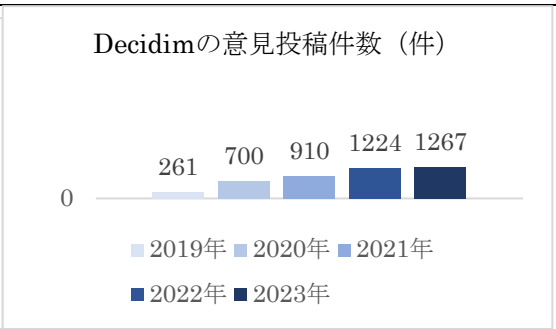

図 4　Decidim 上での発言数の推移

ながら考えてみたところ、いくつかの問題があるように思えました。

例えば、加古川市から提案された内容について、加古川市版 Decidim 上で発言しようと思っても、どのような手順で、発言するグループや、発言するサイバー空間上での領域（スレッド）にたどり着ければいいのかが、直感的にわかりにくいという印象を持ちました。加古川市の方にお尋ねすれば、丁寧に教えてはくださるのですが、発言したいと思ったその時に、発言するためのスレッドにたどり着けなかった時には、発言する気持ちも大きくそがれてしまいました。

このような Decidim の参加に関する課題を解決するために、加古川市版 Decidim で発言してもよいかな、とお考えの市民やステークホルダーの方々に向けて、実際の画面例などを示しつつ、どこをどうタップ（クリック）してどのように目的の場所にたどり着けるのかについてのわかりやすいマニュアルをこれから作成していきます。また、せっかくの質問や意見が出されても、反応する人が少なく、放置されている状態となっている期間が長ければ、発言する気持ちも薄れてしまうように思います。そこで私たちは、定期的に Decidim にアクセスし、発言に対するフォローや賛成・反対のボタンを押すだけではなく、コメントを入力することで、発言された方がきちんと受け止めてもらえているという印象を持ってもらえるようにするとともに、さらなる発言や議論の発展が起きるような働きかけを行い、議論の活性化を図り、市民にとってより発言がしやすく、市の関係者と市民、行政関係者が活発に議論する場になるよう盛り上げることを考えています。

たとえ勇気を出して発言したとしても、賛成・反対ボタンだけでなく、「いいね」ボタンが押されるだけでなく、賛成や反対などについて、文字で書かれた発言のかたちで誰かが反応してくださらなければ、自分の発言内容はつまらなかったのだ、と思いこんでしまうのではないか、と思いました。実際、Wired 日本版のウェブ記事の「われわれで決定する」シビックテックの現在地：WIRED フィールドワーク［加古川市×Decidim 編］ では、ある高校生が Decidim に投稿したことに対して、加古川市の職員の方からコメントが返ってきたことをとても重要なこととして、よろこんでいると、高校の先生に伝えたことがかかれていました。

図 1 に示したように、加古川市版 Decidim の主な参加者として 20 歳代以下の参加者が全体の50％以上を占めています。この中には投票権のない 18 歳以下の方の参加者がいることも想定されます。このような若い世代の方々が、将来の自分たちの現実空間で起きるまちづくりについて、サイバー空間でもまちづくりの議論に包摂型で参加できる可能性があることを示しています。

しかし、なかなか加古川市版 Decidim 上での発言・コメントが増えていかないという現状の課題を解決するために、私たちチーム県立大学 JB24 のメンバーを中心に、発言に対するフォロー発言を入れていくだけでも、加古川市版 Decidim での対話はもっと活性化するのではないか、という思いに至りました。他の方もフォローのコメントが入れやすいように発言の方法についてのわかりやすいマニュアルや動画が用意されることで、発言のための障害が取り除かれれば、より豊かな対話が加古川市を取り巻く人々の中で生まれるのではないかと思うようになりました。

一人一人の価値観が尊重され、個性や能力が発揮できる加古川市となり、加古川市で生活するあらゆる人々が、日常生活の中で幸せを実感することができ、とりわけ未来社会を担う子供たちや若い世代が将来に夢や希望を描くことができるまちづくりにつながるよう、共感と尊敬に基づく熟議のプラットフォームとして、加古川市版 Decidim が今以上に利用されるようになると加古川市で活動している様々な人々の Well-Being が向上するのではないかと考えられます。そして、現実空間としての加古川市とその魅力が広く認識されるようになれば、加古川市が日本全国の人々により広く認識されるようになり、交流人口の一層の拡大につながり、さらなる地域の活性化につながると考えます。また、基礎演習で実際に触れた加古川市が提供されているオープンデータについても今後積極的に活用し、分析した結果を対外的な場（例えば、学会など）でも発表し、その成果を加古川市、加古川市民、加古川市に関係している方々にお返しすることで、人々の加古川市での日常生活でより深く、より豊かな Well-Being を感じられるよう、様々な協力をしていきたいと考えています。

参考文献

Shintaro Eguchi, Misa Shinshi（2022）.「われわれで決定する」シビックテックの現在地：WIRED フィールドワーク［加古川市×Decidim 編］. Wired. https://wired.jp/article/vol42-civic-tech-kakogawa/ (2024 年 12 月 19 日最終アクセス)

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1．実現する主体
2．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

1．実現する主体

兵庫県立大学の社会情報科学部の学生主体とする加古川市のスマートシティやオープンデータを利用する学生や教員が、演習科目などや夏休みなどの自主研究の一環として取り組む

2．実現に至る必要な資源

基本的には、学習用に利用している個人所有の PC を利用し、大学が提供しているインターネット接続環境からサイバー空間上での活動を実施します。このため、大学の教室などを利用するため、さほど大きな資源は必要がないのでは、と考えています。活動の成果の報告に関する旅費等の費用や活動に関する費用については、別途大学の学友会等の支援組織のゼミ運営経費や大学の学術研究会などからの資金的支援等を利用する予定です。また、次々年度以降は加古川市の補助金制度「協働のまちづくり推進事業（補助金制度）」などにも応募し、補助金を受けることも検討しています。

3．実現に至る時間軸を含むプロセス

現在まで

- 加古川市の市民意識調査結果（オープンデータ）を利用した加古川市の地域課題の分析を基礎演習の課題として実施し、大学の同級生、教員、加古川市の職員の方に対してプレゼンテーションを実施しました。
- 加古川市の Decidim の利用に関する課題と、その解決策の洗い出しを自主研究として実施しています。
- 加古川市のオープンデータカタログサイトのデータを利用した分析を継続して実施しています。
- 加古川市と Decidim を利用して、今後の Decidim の改善の方針に関する整理と提案についての相談を実施しています。

2025 年3月

- 加古川市の Decidim の利用に関するマニュアルの試用版を完成させる予定です。

2025 年5月

- 加古川市版 Decidim の利用に関するマニュアルの正式版の作成し、マニュアル配布などのために利用する独自ウェブサイトの構築をする予定です。
- 加古川市の Decidim の正式版の利用マニュアルをわかりやすく紹介する動画の作成に着手します。
- これらに関するチラシの作成・配布を検討しています。

2025 年 7－9 月

- 加古川市のオープンデータを利用し、今後のよりよいかこがわのための提案を検討する予定です。また、デジタル甲子園に向けた準備を行う予定です。
- 加古川市のオープンデータを利用した分析結果の公表、研究会などの発表機会への応募（SAS ユーザー会・COG2025 への応募）や応募のためのアブストラクトの作成を検討していきます。

2025 年 10 月

- 加古川市のオープンデータを利用し、今後のよりよいかこがわのための提案を検討する予定です。また、デジ田甲子園に向けた準備を行う予定です。

2025 年 11 月

- 加古川市のオープンデータを利用した分析結果の発表（SAS ユーザー会・COG2025 など）する予定です。